

自社ブランドの医薬品開発・販売に向けて

会社名 中外医薬生産株式会社
所在地 三重県伊賀市ゆめが丘7-5-5
従業員 244名 (男性144名 女性100名 2025年9月現在)
資本金 1億円
売上高 68億円(2025年4月期)
業種 医療用医薬品及び一般用医薬品、医薬部外品、清涼飲料水、健康食品の製造、販売



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 成長している大手製薬会社のOEM生産事業を安定基盤としつつ、将来的には自社ブランドの商品を生み出したい。
- 会社の知名度を上げて、県内外の理系大学から優秀な人材を獲得したい。

支援を受けてできるようになったこと

After

- 先行技術情報や知的財産権の出願・登録情報に関する調査・分析を、高度に進められるようになった。
- 外部向け・内部者向けのブランディングの進め方を確認し、ブランディングに関する議論の結果、PRポイントになりえる事項を抽出するに至った。

今後の事業展開の展望

Future

- 随時、出願・登録情報の調査を行う中で、自社独自の発明となる要素を見落とさないように開発活動を進めていく。
- 中長期の視点で、従業員や採用を意識したブランディングを進めていくことで、人材の確保・定着に取り組んでいく。

加速的支援を受けた事業や商材

市販薬を中心とする医薬品の製造販売をしており、開発から製造・販売まで全て自社にて手掛けている。大手製薬会社との共同開発の実績を多数持ち、大手ドラッグストアのプライベートブランド商品も手掛けている。製薬会社が撤退する事業分野において、他社から当該事業を受託するなど、競争の少ないニッチな分野で安定した事業を実施している。



【出典】株式会社ホームページ <https://chugai-iyaku.co.jp/>



加速的支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
開発・知財戦略	自社ブランドの製品を将来的に販売していくにあたり、特許を始め、独自の知的財産(権)を戦略的に確保しておく必要があるため。
体制構築	独自の知的財産(権)を確保していくに当たり、先行技術や出願・登録情報を調査する体制を、更に充実させる必要があった。
契約支援	開発や製造の受託契約を他社と締結しているが、知的財産や事業計画等の観点からのリスクチェックを精緻に確認しきれていない可能性があった。
事業・ブランド戦略	今後、独自ブランドを販売することを見据えて消費者等に訴求したり、採用において自社をPRするに当たり、自社のブランドの在り方を整理しておく必要があった。



加速的支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
開発・知財戦略	<ul style="list-style-type: none"> 以前よりも先行技術調査を高度化させることができ、商用の調査ツールも導入して、収集情報を開発に生かしている。 受託製造における契約のポイントの理解に至った。 	弁理士 製品開発専門家
体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 先行技術や出願・登録情報を、より効率的かつ高度に収集・分析をする手法について助言を得て、対応担当者の調査スキルが向上したとともに、組織的な手順として内部で標準化していく準備が進んだ。 	弁理士 製品開発専門家
契約支援	<ul style="list-style-type: none"> 開発や製造の受託契約における、事業面・知財面からのリスクとなりがちな条項について確認をし、今後の類似する契約にも生かしていく視点を得た。 	弁理士 契約管理専門家
事業・ブランド戦略	<ul style="list-style-type: none"> 顧客(取引先やエンドユーザー)に対する「自社・事業・製品のブランディング」と、社員や採用候補者に対する「インターナルブランディング」の進め方・考え方について理解した。検討を通じて、立地や地域性が1つのPRポイントになりえると、方向性をつかんだ。 	ブランド専門家 弁理士

支援チーム紹介

主担当専門家: 弁理士 森本敏明

活用専門家: 中小企業診断士、製品開発専門家、契約管理専門家、ブランド専門家

知財総合支援窓口担当者: 三重県知財総合支援窓口 下村健次

PO(プログラムオフィサー): 中泰広